

特定テーマ1に対する企画提案

1 現状分析

市民や来訪者が「岡山らしさ」を感じられる
駅前広場の空間・建築デザイン

1-1 はじめに 現在の岡山駅前広場の現状分析

特定テーマ1を企画提案するにあたって、まずは、現在の岡山駅前広場についての現状分析を行ってみたいと考えます。

駅前広場計画指針（建設省都市局交通調査室監修 H10）によりますと、駅前広場の担うべき機能としては、

- 1：交通結節機能（各種交通を結節・収容する）
- 2：市街地拠点機能（都市拠点を形成する）
- 3：交流機能（憩い・集い・語らいの中心となる）
- 4：景観機能（都市の顔としての景観を形成）
- 5：サービス機能（公共的サービスの提供、各種情報の提供）
- 6：防災機能（防災活動の拠点となる）

以上6機能が定義されています。特定テーマ1を企画提案するにあたっては、上記の内の3：交流機能、4：景観機能、5：サービス機能についてが特に関連が大きい項目と考えられますので、3項目についての現状分析を行ってみたいと思います。

1-2 交流機能についての現状分析

- ・広場にてイベントを行うときにそのスペースが狭く、せっかくのイベントがにぎわいの創出に十分に寄与できていない。
- ・ベンチ、木陰、などの座れる場所、憩いのスペースが少なく、広場が移動のためだけの場所となっており、交流のための場所となっていない。



イベント時には手狭な広場

1-3 景観機能についての現状分析

- ・いろいろな景観要素が点在し、雑多なイメージとなってしまっている。
- ・岡山城への都市軸：桃太郎大通り見えづらく、ビスタの確保ができていない。
- ・県都・岡山の顔としてのシンボル性に欠ける。
- ・「岡山らしさ」を感じれない。



ビスタが確保できていない

1-4 サービス機能についての現状分析

- ・来訪者に対しての観光案内所がわかりにくい。おもてなしになっていない。
- ・駅から路面電車、バスへと乗り換えを行うとき、距離が長く、歩行空間が狭いところがある。
- ・案内サイン等がわかりにくい。意匠的にも古さを感じる。



現状総合案内サイン+注意喚起サイン

特定テーマ1に対する企画提案

2 デザインコンセプト・方針の検討

市民や来訪者が「岡山らしさ」を感じられる
駅前広場の空間・建築デザイン

2-1 将来において求められる機能

現状分析を踏まえ、新しい駅前広場を考えるにあたり、将来において求められる機能をまとめてみたいと思います。

2-1-1 交流機能について

- ・ イベント開催時のまとまった広さの確保
- ・ 憩いの場の計画、にぎわい、活気を生み出す場づくり

2-1-2 景観機能について

- ・ 景観要素の整理
- ・ 桃太郎大通りへのビスタの確保
- ・ 「岡山らしさ」の創出
- ・ シンボリックな景観

2-1-3 サービス機能について

- ・ 来訪者に対してわかりやすい空間づくり
- ・ ユニバーサルデザインの実践

2-2 デザインコンセプト

以上を基にして、特定テーマ1に対してのデザインコンセプトを以下に集約し、まとめます。

- ① 岡山の玄関口にふさわしいシンボリックな広場・・・**シンボル性**
- ② 「岡山らしさ」を感じるデザイン・・・**岡山らしさのデザイン**
- ③ にぎわい・活気を生み出す中心・・・**にぎわい・活気の創出**
- ④ 誰にとっても使いやすい広場・・・**やさしさのデザイン**

2-3 デザイン方針

デザイン方針

「受け継がれる心の原風景」

デザインコンセプトに基づいて、それらを具体的に形にするためのデザイン方針を考えた時、岡山らしく、シンボル性があり、世界に対しても発信できるものとして、瀬戸内海の多島美の風景をデザイン・モチーフにするのがふさわしいのではないかと考えます。



瀬戸内の多島美の景観

デザイン方針を「**受け継がれる心の原風景**」とします。駅前広場を瀬戸内海に見立て、点在する各施設を海に浮かぶ島々になぞらえます。その風景は、日常的な夕焼けさえ息をのむほどに美しい、岡山が世界に誇れる瀬戸内の多島美の風景と重なり合い、岡山在住の人々のみならず、来訪者、また海外からの旅行者の方々にも、「岡山の原風景」として強く心に響き、印象的な体験となるのではないのでしょうか。世代を超えて、継承されるべき岡山の心の原風景、県都岡山の玄関口であるこの場所・駅前広場には、そのようなデザインがふさわしいのではないかと考えます。

市民や来訪者が「岡山らしさ」を感じられる駅前広場の空間・建築デザイン

3 デザイン計画案の策定

ガラス大庇：「ももたろうルーフ」の提案

駅前広場にガラス大庇「ももたろうルーフ」を提案します。ガラス屋根、県産ヒノキ集成材梁、鉄骨、そして備前焼床タイルで構成されたシンプルな独立大庇が、広場、路面電車停留所のすべてを包み込み、ヒノキの薫る、屋外大空間を構成します。

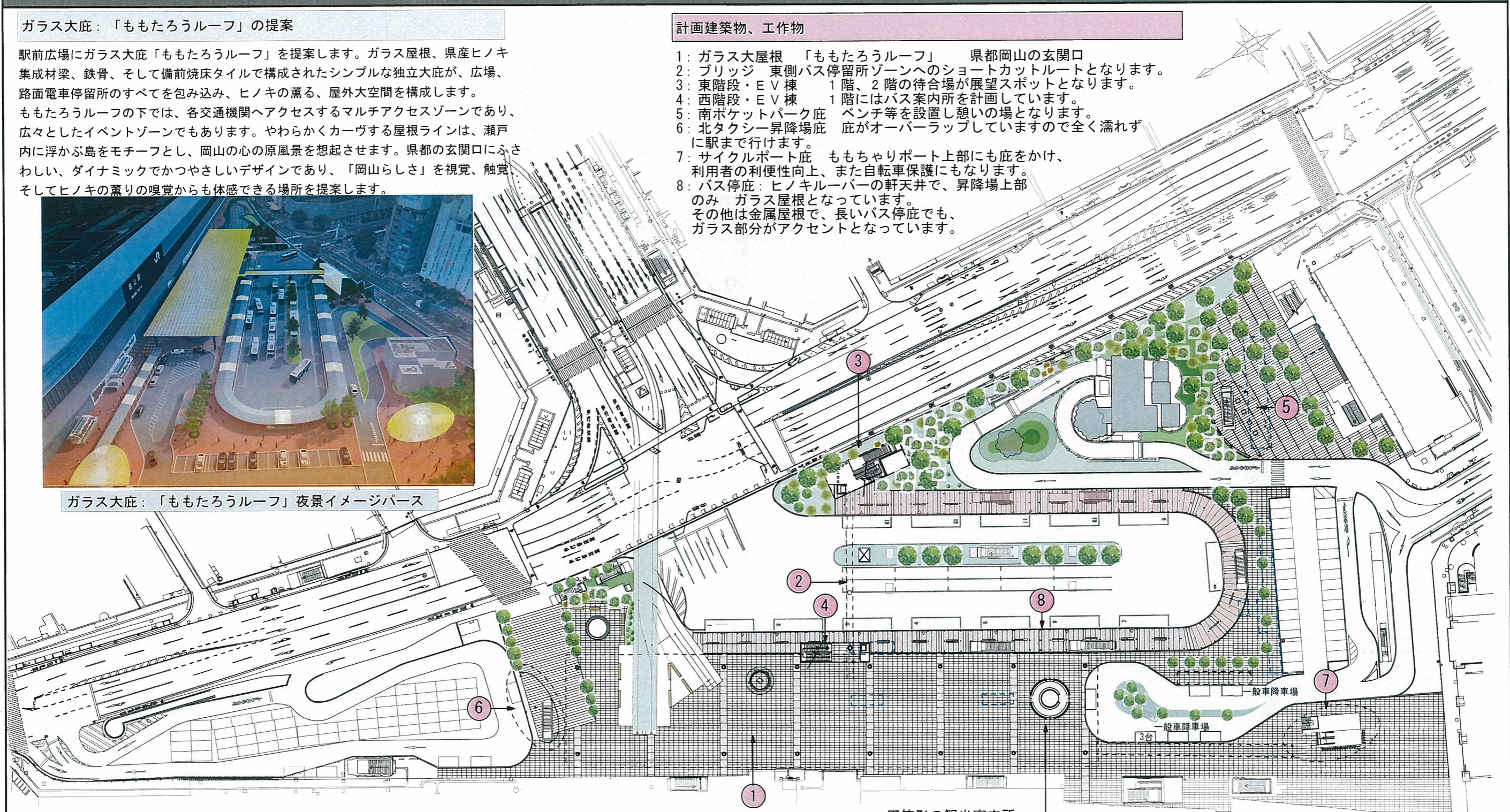
ももたろうルーフの下では、各交通機関へアクセスするマルチアクセスゾーンであり、広々としたイベントゾーンでもあります。やわらかくカーヴする屋根ラインは、瀬戸内に浮かぶ島をモチーフとし、岡山の心の原風景を想起させます。県都の玄関口にふさわしい、ダイナミックでかつやさしいデザインであり、「岡山らしさ」を視覚、触覚、そしてヒノキの薫りの嗅覚からも体感できる場所を提案します。



ガラス大庇：「ももたろうルーフ」夜景イメージパース

計画建築物、工作物

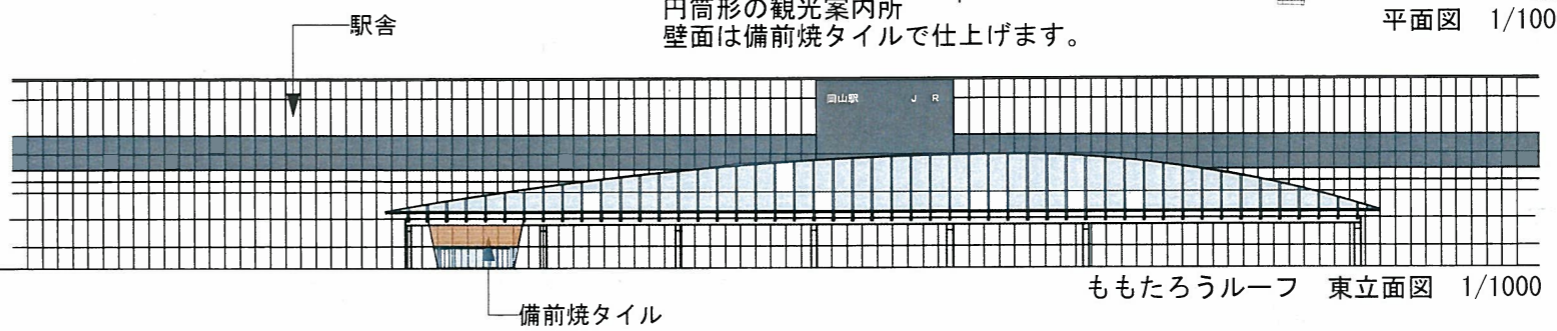
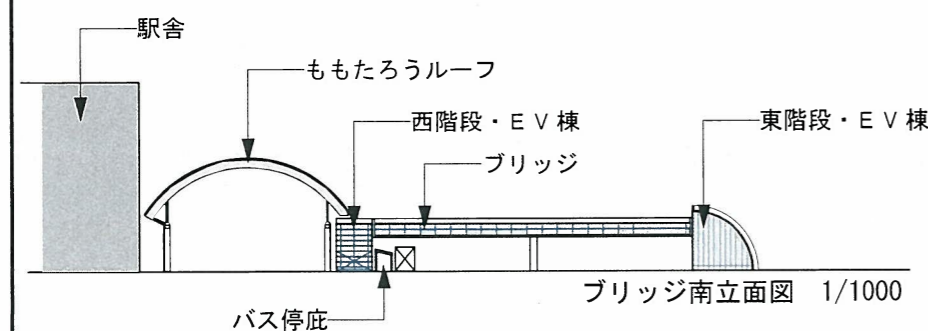
- 1: ガラス大屋根 「ももたろうルーフ」 県都岡山の玄関口
- 2: ブリッジ 東側バス停留所ゾーンへのショートカットルートとなります。
- 3: 東階段・EV棟 1階、2階の待合場が展望スポットとなります。
- 4: 西階段・EV棟 1階にはバス案内所を計画しています。
- 5: 南ポケットパーク庇 ベンチ等を設置し憩いの場となります。
- 6: 北タクシー昇降場庇 庇がオーバーラップしていますので全く濡れずに駅まで行けます。
- 7: サイクルポート庇 ももちやりポート上部にも庇をかけ、利用者の利便性向上、また自転車保護にもなります。
- 8: バス停庇：ヒノキルーバーの軒天井で、昇降場上部のみ ガラス屋根となっています。その他は金属屋根で、長いバス停庇でも、ガラス部分がアクセントとなっています。



円筒形の観光案内所 壁面は備前焼タイルで仕上げます。

平面図 1/1000

撤去建築物を示す。



4 外観パース

市民や来訪者が「岡山らしさ」を感じられる駅前広場の空間・建築デザイン



概算工事費：100～150億円程度